

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 2 日現在

機関番号：32686

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2014～2016

課題番号：26370115

研究課題名(和文) 東アジア文化圏大衆文化における「近代」「少女歌劇」系芸能から

研究課題名(英文) "Modern" in Popular Culture of East Asia-Through the Art of "Girl's Opera"

研究代表者

細井 尚子 (HOSOI, Naoko)

立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授

研究者番号：40219184

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,800,000円

研究成果の概要(和文)：本課題は、東アジアの娯楽市場における「近代」の実体化、「他」による「自」の再構築の姿を、近代化の一面である娯楽消費の主体としての女性・子供に焦点を当て、「少女歌劇」系芸能を対象に解明することを目的とした。

東アジアを「近代日本」に覆われた空間ととらえ、この空間下の芸能にみられた「日本化」現象の比較分析により、東アジアの娯楽市場における「近代」の実体化は、近代国家としての「(近代)日本」を作るために東京を実験場にして形成された「(仮称)東京文化コード」(江戸文化と地続きの東京文化ではない)に「自」文化コードを合わせていく作業であったことが抽出された。

研究成果の概要(英文)：The purpose of this project is to elucidate how "modernization" was realized in the entertainment market in East Asia, and how to reconstruct "own culture" in contact with "other culture". We considered "Japanese style girl's opera" performance focusing on one of the features of modernization that women and children appear as recreational consumers. By comparative analysis of the performances in East Asian area among various "Japanization" phenomenon, which is resulted from having covered with "modern Japan" under Japanese occupation, we found that the way of realization of "modern" in the East Asian entertainment market is a work of matching the own cultural code to "(provisional name) Tokyo Culture Code". We define that this "Tokyo Culture Code" is the one created in order to establish "Japan" as a modern state, by using Tokyo as a test site, and not the one as a successor to Edo culture.

研究分野：演劇学

キーワード：東アジア 娯楽市場 近代 少女歌劇系芸能 東京文化コード

1. 研究開始当初の背景

(1)本研究の対象である「少女歌劇」系芸態は、演者が女性のみで観客も女性を主体とするため、東アジアのいずれの国・地域でも研究対象と見做されにくかった。例えば日本では、近代以降に生まれた「演劇」「演芸」の概念は、近世以前の「大芝居」「小芝居」の概念の文脈に立つ面があり、近代化の下で改革や研究の対象となったのは「演劇」ジャンルに偏重していたと言える。日本の「少女歌劇」系芸態は、娯楽市場の興行ソフトではない世界で生まれたものと（後に興行ソフトに以降したものもある）、興行ソフトとして生まれたものがあるが、松竹など後者は「演芸」の範疇にあった。

(2)研究代表者は日本本土、沖縄、中国、台湾、韓国の「少女歌劇」系芸態を各地の娯楽市場における他の芸態との比較や娯楽市場における位置、2者比較、3者比較などを通じて、演者が女性であるということ以外に以下の7つの点を共有することを抽出した。①20世紀に誕生した。②観客に女性が多い。③演じる内容が比較的通俗的である。④演劇のもつ2つの機能（教育・啓蒙系、娯楽系）のうち、娯楽系に重心がある。⑤表現方法・表現内容に「伝統」の単なる保持・継承ではない要素がある。⑥属性として、世の中から「おんな子供のもの」と見做され、二流扱いを受けやすかった。⑦スタイル形成時の社会では、芝居人の社会的地位が低い上、ややもすると「少女」イメージの許容範囲を逸脱する性的対象としての視線等を浴びる危険性を有した。「少女歌劇」系芸態に焦点を当てて共有要素を得られたので、次の段階として、相違点に注目して研究を進めた。

(3)娯楽市場に注目すれば、東アジアの20世紀は異国・異文化との衝撃的な接触により、それ以前の各々の文化を「伝統」として括り、「今」に適した文化の創造を目指した100年であったとも言える。東アジアの「少女歌劇」系芸態は、前述の共有要素を有しながら、個々の「伝統」との関係においては多様性を示している。

(4)(1)(2)(3)を踏まえ、個々の事例研究を東アジアという枠の中で捉え直し、各々の娯楽市場における「近代」化をもたらした文化に対する視線・受容の仕方の比較、「伝統」の時代を超え得る強度、新しい観客を形成した社会状況、興行などから「他」による「自」の再構築がどのようなものであったか、「非西洋」である東アジアが、どのように「西洋」を用いて「近代」の自己表象を成したのかを解明することで、東アジア文化研究を事例研究から発展させ、東アジアの大衆文化研究者と連携した東アジア文化圏研究を展開できるのではないかと考えた。

2. 研究の目的

本研究は、「非西洋」が「西洋」と接触する中で生み出した「近代」大衆文化における

「伝統」と「近代」の関係、「他」による「自」の再構築がどのようなものであったかを、近代化がもたらしたもう1つの側面—娯楽消費の主体としての女性・子供—を切り口に取り組む。日本（本土）・沖縄・中国・台湾・韓国の近代娯楽市場において支持された「少女歌劇」系芸態の基礎資料作成、オーラル・ヒストリーの蓄積に務め、社会との関係にも配慮しつつ、そのありようを当該社会における演劇・芸能において定位した上で、比較研究により東アジア文化圏の大衆文化における「近代」を解明することを目的とする。

3. 研究の方法

(1)研究組織の強化

（主として初年度）本研究の前身となる各研究プロジェクト等で連携してきた東アジアの研究者で組織したメンバーと本研究の目的を共有、各自の分担内容の把握、研究成果の共有のため、研究会のほか本研究の研究協力者による講演会など（5回）、また、立教大学の正規科目として「少女歌劇の100年」を開講して代表者、分担者、協力者による講義、学会発表などを行った。これらにより共有したメンバー個々の研究蓄積を基に、全体計画及び個々の活動計画を検討・共有した。メンバー個々は、本研究の目的・方向性に基づき、自己の研究成果の読み直し、新たな研究展開のための資料作成・収集、分析に取り組んだ。

(2)研究拠点を2か所に置く

当初は、日本・中国・韓国間の政治的状況が、この三国間で行う近代を対象とする共同研究活動に与える影響（例えば中国の研究者が日本での研究会などの活動に参加できないなど）について若干の不安はあった。研究代表者が14年度後半期から1年間、国立台北芸術大学に在外研究で滞在することが認められたため（在外研究期間中、代表者は科研の研究費を用いず、立教大学の在外研究費等で研究活動を行った）、台湾の関連資料の分析に基づき、台湾の近代娯楽市場と日本・中国の同時期娯楽市場との距離の近さを抽出、2015年、台湾の近代娯楽市場及び大衆演劇研究を東アジアの枠組で読み直す共同研究組織として、台北芸術大学の研究者と共に、日本・中国・韓国のいずれの国とも比較的安定している台湾にも研究拠点を形成すべく、「東亜戯劇教師群」を台北芸術大学のプロジェクトとして申請、採択され、助成金を得て研究活動を開始した。この組織が台湾における本研究の人的ネットワーク及び研究活動の核となり、本研究の研究拠点（東亜大衆戯劇研究会）を台湾に形成することができた。

(3)フィールドワークによる個の総体化

2年目の2015年度、本研究のメンバー及び台湾の東亜大衆戯劇研究会メンバーで、沖縄芸能のフィールドワークとして組踊、舞踊、村踊の資料収集、実践者インタビューを行った。フィールドワーク参加者を主とする研究会などで、同じ対象を各メンバーが自己の専門

及び本研究のために行ってきた分担研究の成果を活かした分析を共有した。これにより個々の分担研究が総体としてどのような関連をもち、どのような反応を起こせるのかなどを把握することができ、個々の強化から全体の強化への道筋をメンバーで共有できた。また、近代以前と近代を繋ぐ人々の生活の中の芸能も、本研究の背景理解として重要であることを再確認し、一部のメンバーはその方面の調査・資料収集も行った。

(4) 国際シンポジウム—研究組織内外の研究交流・中間成果報告・最終成果報告

2014年11月に「2014女性戯劇国際研討会」を本研究課題が共催となって中華民国台南市・国立成功大学で開催、代表者は主催側メンバーだったため、代表者、分担者、協力者も研究発表を行ったほか、系列講座として講演を6回行った。

2016年10月7-8日、中華民国台北市・国立台北芸術大学で、「東亜大衆戯劇国際學術研討会」(国際学会)を国立台北芸術大学主催、東亜大衆戯劇研究会・本研究課題・立教大学アジア地域研究所共催で開催した。本研究組織メンバーにとっては、本研究の中間成果報告の場であった。また、沖縄から舞踊家を招聘してレクチャー&デモンストレーションも開催した。本研究組織外の研究者との意見交流は、本研究に資するものとなった。

2017年1月7-8日、本研究の最終成果報告として、立教大学で国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇』を立教大学アジア地域研究所主催で開催した。このシンポジウムで発表した論文は、最終成果報告論文集として刊行した(2017年3月)。

4. 研究成果

(1) ローカライズドの方法

本研究の前身研究の成果として、「他」文化との接触・吸収・受容による「自」の再構築の方法として、「上書き型」(「自」文化をベースに「他」文化要素を付加する)と「リセット型」(「他」文化をベースに「自」文化要素を付加する)の二様があることは抽出されていた。本研究では、なぜこの二様があるのか、どのような理由でいずれかを選択するのかといった点を「伝統」との関係、及び娯楽市場の状況から分析した。その結果、日本は「上書き型」から「リセット型」へ、中国、台湾、韓国が「上書き型」と分類できるのは、人々の生活様式、教育による文化コード変換、すなわちその芸能が存在する社会の反映であることが導き出された。

(2) 「日本化」

日本の娯楽市場とそのソフトにおける近代化は、西洋化とほぼ重なる。一方、本研究の対象地域・時期の東アジアの娯楽市場とそのソフトの近代化は日本化とほぼ同意になる。その「日本化」とは、「日本が翻案・翻訳した西洋」化であり、日本国内において明治政府が目指した近代国家としての日本を作る

ための「(近代)日本」化でもある。

(3) 「東京文化コード」(仮称)

「(近代)日本」文化コードは、東京を実験場に実体化させた「東京文化コード」(仮称)であることを認識した。この「東京文化コード」は近世以来の江戸文化と陸続きではなく、当初はどこにも、誰にも紐付けされておらず、新しい教育制度によって育成される人々に紐付けされるものだった。

(4) 「近代日本」空間下の東アジア

近代の東アジアを「近代日本」に覆われた空間と見做すと、この空間下の娯楽市場とそのソフトにおける近代化の方法とは、東京も含めていずれも従来の「自」文化コードを「東京文化コード」に合わせていく作業と捉えることができる。

これにより、近代の東アジアが有する政治的關係による影響(日本の文化を優位に置くなど)から距離を保ちながら、対象とする文化実態としての演劇と社会を捉え、東アジア文化圏を「近代日本」空間という共通した視座から横断的・包括的に捉えることが可能になった。

この概念は、最終成果報告である2017年1月の国際シンポジウムの構成に反映した。

(5) ポスト・グローバル時代の大衆文化研究の可能性

本研究の研究過程で、新たに以下の2つを抽出した。

① 芸能の属性にみる階級性

日本の芸能に顕著にみられる階級化は、その芸能を支持する人々の社会的属性に呼応する。この芸能の階級性においては、特に「式楽」の存在が重要である。近世から近代に至る過程で、それは階層化に変じ、具体的に呼応する人々も変わった。この特性が東アジアの中で日本に最も顕著に見られるのは、皇室の存在が持続していることによると想定される。

② ポスト・グローバル時代の大衆文化研究
台湾では歴史的に王朝が存在せず、従って本研究の対象範囲においては唯一「式楽」が存在しない。その娯楽市場の歴史・状況を分析すると、人々は自身の社会的属性ではなく、言語によって娯楽として楽しむ芸能を選択してきた。この状況はグローバル化した娯楽市場において、様々な出自・背景をもつソフト(ソフトの多様化)が同じレベルに並び、人々が自身の嗜好によって芸能を選択する状況と類似する。台湾の娯楽市場とソフトを切り口に、例えば日本で、近代化の際に改革の対象に入らずに徐々に退潮化した大衆演劇系の芸能が21世紀に入って復調しているなど、グローバル化時代の東アジア文化圏の娯楽市場におけるソフトの状況も合わせて研究することで、ポスト・グローバル時代の大衆文化の特性を抽出できるのではないかと思われる。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 4 件)

- ① 菊池明、松山薫、柳澤和子、濱口久仁子 (研究協力者) 共著「資料紹介坪内逍遥宛諸家書簡(1) 坪内逍遥宛會津八一書簡(1)」『演劇研究』39号 早稲田大学演劇博物館 2015 pp.183-262 査読無
- ② 細井尚子 「近代大衆戯劇和伝統文化—以沖繩芝居為例—」『戯劇学刊』22期 台湾・台北芸術大学 2015 pp.51-80 査読有
- ③ 濱口久仁子 (研究協力者) 「日本伝統舞踊(日本舞踊とその周辺)」『伝芸』114期 台湾・伝統芸術中心 2014 pp.50-59 査読無
- ④ 濱口久仁子 (研究協力者) (資料翻刻論文) 「坪内士行宛葉書」『演劇研究』38号 早稲田大学演劇博物館 2014 pp.151-164 査読無

[学会発表] (計 38 件)

- ① 邱坤良 (研究協力者) 「東亞大衆文化的流動——以電影與戯劇的聯結性為主」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ② 簡秀珍 (研究協力者) 「兩地相照看—初代松旭齋天勝一座在臺灣與大阪の演出」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ③ 林子竝 (研究協力者) 「日本戦後演劇における大衆的なもの」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ④ 濱口久仁子 (研究協力者) 「歌舞伎舞踊と京舞井上流の比較にみる日本舞踊における性別超越の一考察」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ⑤ 吉田弥生 「〈芸どころ名古屋〉における少女歌舞伎・少女戯劇」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ⑥ 中野正昭 「博多中洲地区の劇場と軽演劇興行」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ⑦ 徐亜湘 (研究協力者) 「日本統治期における台湾京劇女優劇団研究」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催

東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日

- ⑧ 張啓豊 (研究協力者) 「從男性／文人到女性／藝人—廖瓊枝《王魁負桂英》的性別、民俗思考與運用」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月7日
- ⑨ 洪榮林 「韩国少女戯劇团的产生与变迁—以鈴兰座为中心」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月8日
- ⑩ 海震 (研究協力者) 「都市中的女子戯劇演唱：越劇音乐在上海的嬗变」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月8日
- ⑪ 細井尚子 「東京文化コードとローカライズド文化—沖繩芝居と宝塚戯劇を例に—」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月8日
- ⑫ 板谷徹 「明治の沖繩芝居における女形と女踊り」国際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇 立教大学アジア地域研究所主催 東京都豊島区・立教大学 2017年1月8日
- ⑬ 細井尚子 「日本近世表演『人形浄瑠璃』之世界」(招待講演) 中華民國・台南市・国立成功大学文学院 2016年10月31日
- ⑭ 細井尚子 「關於全球化現象下文化「在地化」方法之考察——以近代日本「少女戯劇」類藝能表演型態為例」東亞大衆戯劇国際學術研討会(国際学会) 台湾・国立台北芸術大学主催 中華民國台北市・国立台北芸術大学 2016年10月7日
- ⑮ 中野正昭 「從表演方法切入「女優」的近代定位—以帝劇女演員森律子為研究對象—」東亞大衆戯劇国際學術研討会(国際学会) 台湾・国立台北芸術大学主催 中華民國台北市・国立台北芸術大学 2016年10月7日
- ⑯ 吉田弥生 「女歌舞伎藝能脈絡」東亞大衆戯劇国際學術研討会(国際学会) 台湾・国立台北芸術大学主催 中華民國台北市・国立台北芸術大学 2016年10月7日
- ⑰ 濱口久仁子 (研究協力者) 「日本舞踊中超越性別的表現——以歌舞伎舞踊與京舞井上流為例」東亞大衆戯劇国際學術研討会(国際学会) 台湾・国立台北芸術大学主催 中華民國台北市・国立台北芸術大学 2016年10月7日
- ⑱ 板谷徹 「沖繩的村踊—王府藝能與大衆藝能之複合」東亞大衆戯劇国際學術研討会(国際学会) 台湾・国立台北芸術大学主催 中華民國台北市・国立台北芸術大学

- 2016年10月7日
- ①⑨ 倉橋滋樹(研究協力者)「從川上音二郎、貞奴到小林一三の傳承」東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月7日
- ②⑩ 簡秀珍(研究協力者)「他者、女流与魔術—日本天勝一座在台灣的演出及其影響」東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月7日
- ③⑪ 徐垂湘(研究協力者)「再探日治時期全女班—以桃園京調女班永樂社系統為例」東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月7日
- ④⑫ 洪榮林(研究協力者)「韓國樂劇与女性國劇之比較研究」東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月7日
- ⑤⑬ 海震(研究協力者)「城市、性別、時代与越劇唱腔音樂在近代的演變」東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月8日
- ⑥⑭ 林于竝(研究協力者)「戰後前衛戲劇当中的大衆性」東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月8日
- ⑦⑮ 張啓豐(研究協力者「多元衍異的大衆故伯英台」為探討對象)東亜大衆戲劇國際學術研討會(國際学会)台灣・国立台北藝術大學主催 中華民國台北市・国立台北藝術大學 2016年10月8日
- ⑧⑯ 細井尚子「『全球在地化』文化的形成—以台灣芸霞歌舞劇團為例」清華大學台文研究所講演會(招待講演)中華民國新竹市・国立清華大學・台文研究所 2016年5月2日
- ⑰⑲ 細井尚子「ローカライズド文化の作られ方—『台灣宝塚』と呼ばれた芸霞歌舞團を例に—」日本演劇学会全國大會 大阪府豊中市・大阪大學 2016年7月3日
- ⑱⑳ 中野正昭「ある学生エキストラからみた築地小劇場—新資料「水森源一郎『小説築地小劇場の人々—』をもとに」日本演劇学会全國大會 大阪府豊中市・大阪大學 2016年7月2日
- ㉑㉒ 細井尚子「文化的『地球化』与『本土化』—日本化劇的实例—」清華大學台文研究所講演會(招待講演)中華民國新竹市・国立清華大學・台文研究所 2016年4月29日
- ㉒㉓ 細井尚子「日本と中国の芸能から考えるローカライズド文化(試論)」日本近現代劇研究会 大阪府豊中市・大阪大學 2015年12月26日
- ㉓㉔ 細井尚子「演出它的身体—以宝塚歌劇為例—」劇場藝術中的身体表現」國際學術研討會(國際学会)中華民國・中国大陸文化大學主催 2015年5月7日
- ㉔㉕ 細井尚子「傳統与現代—日本大衆戲劇的歌舞伎—」(招待講演)中華民國台南市・国立成功大學文學院學術交流計畫 2015年4月30日
- ㉕㉖ 板谷徹「琉球の唐躍と近世の江戸」2015 Association Asian Studies Conference アメリカ・イリノイ州シカゴ Chicago Sheraton Hotel&Towers 2015年3月26日~3月29日
- ㉖㉗ 細井尚子「日本少女歌劇之特性—以松竹歌劇為例」2014女性戲劇國際研討會(國際学会)中華民國・台南市国立成功大學 2014年11月15日
- ㉗㉘ 中野正昭「帝國女優劇—女優の登場にみる日本の近代演劇の形成」2014女性戲劇國際研討會(國際学会)中華民國・台南市国立成功大學 2014年11月16日
- ㉘㉙ 洪榮林(研究協力者)「韓國女性劇團的歷史与文化內涵」2014女性戲劇國際研討會(國際学会)中華民國・台南市国立成功大學 2014年11月16日
- ㉙㉚ 細井尚子「東アジアの少女歌劇系芸態からみる近代—「非西洋」の戦略—」日本演劇学会全國大會 大阪府寝屋川市・摂南大學 2014年6月14-15日
- ㉚㉛ 細井尚子「近代大衆戲劇和傳統文化—以沖繩芝居為例—」國際研討會「台灣戲劇研究的回顧与前瞻」中華民國台北市・台北藝術大學 2014年5月9-11日
- 〔図書〕(計10件)
- ① 中野正昭(共著)『浅草オペラ 舞台芸術と娯楽の近代』森話社 2017年 290頁 (pp. 7-21, 187-230)
- ② 中野正昭(共著)『オペラ/音楽学 研究ハンドブック』アルテスパブリッシング 2017年 450頁 (pp. 351-362, 368-377)
- ③ 細井尚子編著(邱坤良、簡秀珍、林于竝、濱口久仁子、吉田弥生、中野正昭、徐垂湘、張啓豐、洪榮林、海震、板谷徹、細井尚子)『國際シンポジウム『近代日本』空間下の東アジア大衆演劇』論文集』立教大學アジア地域研究所 2017年 316頁 (pp. 4-32, 43-99, 100-108, 109-124, 125-137, 138-150, 151-181, 182-216, 217-246, 247-268, 269-281, 282-315)
- ④ 細井尚子、中野正昭他(共著)『跨越時空的歌聲舞影—2014女性戲劇國際研討會專書』中華民國台南市・国立成功大學藝術中心 2016年 186頁 (pp. 7-27, 75-86)
- ⑤ 板谷徹『近世琉球の王府芸能と唐・大和』岩田書院 2015年 391頁
- ⑥ 中山文編著(森平崇文、細井尚子他)『越劇の世界 中国の女性演劇』水山産業出版部 2015年 291頁 (pp. 57-85)

- ⑦ 中野正昭編著 (中野正昭、吉田弥生、濱口久仁子(研究協力者)、細井尚子他)『ステージ・ショウの時代』394頁 (pp. 7-38, 39-60, 61-88, 中野 161-214, 359-394)
- ⑧ 岡崎由美、松浦智子編細井尚子他共著『楊家将演義読本』勉誠出版 2015 312頁 (pp. 117-134)
- ⑨ 中野正昭他共著『古川ロッパ 食べた、書いた、笑わせた！ 昭和を日記した喜劇王』河出書房新社 179頁 (pp. 144-150, 177-179)
- ⑩ 神山彰編中野正昭他共著『商業演劇の光芒』森話社 2014 376頁 (pp. 157-186)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

細井 尚子 (HOSOI Naoko)
立教大学・異文化コミュニケーション学部・教授
研究者番号：40219184

(2) 研究分担者

中野 正昭 (NAKANO Masaaki)
明治大学・文学部・兼任講師
研究者番号：40409727

吉田 弥生 (YOSHIDA Yayoi)
フェリス学院大学・文学部・教授
研究者番号：00389876

(3) 連携研究者

板谷 徹 (ITAYA Toru)
沖縄県立芸術大学・名誉教授
研究者番号：20130867

(4) 研究協力者

濱口 久仁子 (HAMAGUCHI Kuniko)
倉橋 滋樹 (KURAHASHI Shigeki)
邱 坤良 (CHIU, Kun-liang)
徐 亜湘 (Hsu, Ya-hsiang)
簡 秀珍 (JIAN, Hsiu-Jen)
張 啓豊 (CHANG, Chi-Feng)
林 于竝 (LIN, Yu-pin)
海 震 (Hai, Zhen)
洪 榮林 (HONG, Younglim)